park. Erg. Wiss. Unters. Schweiz. Nationalparkes 1: 477-524. Wiedeman, V.E., P.L. Walne & F.R. Trainor 1964. A new technique for obtaining axenic cultures of algae. Can. J. Bot. 42: 958-959.

* * * *

広島県北東部の帝釈峡に生育するイヌガヤの樹皮上から黄緑藻類の *Botrydiopsis alpina* Vischer を分離した。本藻は球形で，直径 18-20 μm である。葉緑体は側壁性で，ごく若い細胞中では長円形または円盤状であるが，増殖期にある細胞中ではほとんどが長円形で中央部に狭窄を持つ。狭窄部には1個の眼点を持つ。古い細胞では，扁平な葉緑体の蓄積がみられる。この現象は他の藻類では知られていないものである。増殖は遊走子と不動胞子による。日本新産。

□福代康夫・高野秀明・千原光雄・松岡数充（編）: **日本の赤潮生物—写真と解説** 407 pp. 1990. 内田老鶴圃，東京. ¥13,390. 日本の近海及び日本の淡水域に出現して赤潮をつくる生物と赤潮をつくる可能性があると思われる生物200種を収録している。内訳は，藍藻8種，クリプト藻2種，渦鞭毛藻70種，珪藻85種，ラフィド藻9種，黄金色藻6種，ハプト藻4種，ユーグレナ藻8種，プラシノ藻5種，緑藻1種，原生動物2種である。1種につきB5判の見開き2頁をあて，光顕及び電子顕微鏡写真と図に続いて，図の説明，和文記載，英文記載，文献が記され，記載には細胞の形態・構造，生殖法，生活史，生態と分布，類似種との比較等の記述が盛られている。過去6年間に亘る水産庁からの委託研究の成果の一部であり，先に出版された高野秀明・千原光雄・福代康夫編「赤潮生物研究指針」740 pp. 1987年（日本水産資源保護協会，20,000円）とともに，赤潮研究者あるいは赤潮生物について知見を得たい人々にとり座右の書となるであろう。なお，題は赤潮生物となっているが，潜在的な赤潮生物も扱っているので，日本近海のプランクトン図鑑の役割も果たしてくれる。（出井雅彦）

□野生生物保護問題研究会（編）: **稀少野生動植物の国内取引規制法 その内容と手続き** 127 pp. 1988. ぎょうせい，東京. ¥800. いわゆるワシントン条約による取引規制生物のリスト，関係法規，手続きおよびその解説より成る。（金井弘夫）

□木村陽二郎（編）: **白井光太郎著作集 第VI巻 本草百家伝・その他** 355+63 pp. 1990. 科学書院，東京. ¥15,450. 本草百家伝の復刻および木村氏による校訂，資料をつけ加えたもの。日本の博物学史研究に有用な一書である。（金井弘夫）